

第3回TRPG交流会

7月27日（土）に、第3回TRPG交流会が博多工業高校の図書館で開催されました。

TRPG（テーブルトーク・ロールプレイング・ゲームの略）は、物語を進めるシナリオとルールブックをもとに、ゲーム機などを使わずに、紙や鉛筆、サイコロなどの道具と参加者同士の会話で、自分が設定したキャラクターが空想上の世界を舞台にした物語の謎や課題を解決していく対話型のゲームです。

今年の参加校は、博多工業高校、福岡工業高校、博多青松高校、東福岡高校、修猷館高校、福岡講倫館高校、筑陽学園高校、柏陵高校、友泉中学校の計25人の生徒が参加しました。その他、高校司書、博多工業の卒業生、第1回交流会の講師であった大学図書館司書の高倉暁大氏も来校しておられました。

交流会は、参加者への事前希望調査をもとに「クトゥルフ神話TRPG」と「初心者向けTRPG」の二種類を各3グループ（1グループ5人ほど）に分け、博多工業の図書委員など17人のスタッフが中心となって進めました。

「クトゥルフ神話TRPG」は、グループのメンバーのうち1人がゲームを進めるキーパー、残りがプレイヤーになります。プレイヤーは、自分の分身となるキャラクターを作り、キャラクターの持つ力などを設定し、他のプレイヤーと協力して設定された課題を解決しながらゴールを目指します。

今年の「クトゥルフ神話TRPG」のシナリオを書いた博多工業の3人の生徒のうち、2人は異空間、1人は図書館に閉じ込められたという設定でストーリーを作り、プレイヤーはそこから脱出するために課題を解決しながら物語を進めるというシナリオを数か月前から考えていたそうです。

その課題解決の一つとして「リアル図書館ルール」があり、課題解決につながる本を探しまわり、探し当てた後は本を開いてプレイヤーのみんなで相談していました。



（受付をするスタッフ）



（挨拶をする博多工業の図書副委員長）



（TRPGキャラクターシートを作成する様子）



（「クトゥルフ神話TRPG」を楽しむグループ）



（図書館の本を調べるプレイヤー）



（頭を寄せ合い課題に該当する項目を探すプレイヤー）

※リアル図書館ロールとは、博多工業高校オリジナルのロールで、課題を解決するために実際にプレイヤーが図書館の本を探したり、図書館の本に書いてあることを調べたりするもの。

「初心者向けTRPG」では、「のびのびTRPGホラー」「ごきぶりポーカー」「ソクラテスラ」などのゲームがあり、生徒が自分で所有しているものも持ち寄ったりしてたくさんの種類を準備し、初めてTRPGを体験する参加者が楽しく交流できるようにしていました。そして、ゲームを始める前、博多工業のスタッフが、一生懸命参加者にゲームの内容など説明していました。



(ゲームの説明をするスタッフ)

「ごきぶりポーカー」は、ゴキブリやコウモリ、ハエ、カエルなど、どちらかという人と人に好まれない生き物を描いたカードを、対戦相手に押し付け合うゲームです。



(「ごきぶりポーカー」で出されたカードに迷っている様子)

同じ種類のカードが4枚そろつか、カードの出し手になったときに出すカードがない場合に負けになります。ゲームでは、相手から本当はカエルでないカードを「カエル」と言って出され、「カエルかな、違うかな。」と迷っていると、まわりから「そのカードはカエルよ。」「カエルとちがう。」などの声をかけられ、和気あいあいとゲームが進行していました。

交流会は、参加者が楽しくゲームをできるように、名札には氏名ではなくニックネームを記入するようにしたり、校門前や自転車置き場には来校者のためにスタッフが待機したりなど、いろいろな配慮がしてありました。さらに、博多工業の生徒がつくったメモ帳が数種類置いてあり、記念に持ち帰ることができるようにしていました。



(笑い声が溢れる会場)



(引いたカードをどんなふうにするか他校の生徒と相談)



(高倉氏からお借りしたボードゲーム)



(自由に持ち帰ることができる記念のメモ帳)



(協力して記念写真を撮る準備)



(記念写真)

初めて会った生徒同士でしたが、ゲームをクリアすると、笑って顔を見合わせたり、ハイタッチしたりと、どのグループも、とても楽しそうでした。参加した中学生からも、「次回はぜひ、友達を誘って参加したい。」という声が聞かれました。

この交流会は、博多工業のスタッフが計画から事前準備、運営まですべて行いました。特に、「クトゥルフ神話TRPG」は、事前準備などが細部にわたってしっかりされていたことが参加者の笑顔につながり、素晴らしい交流会になったと思います。

Hello! 学校図書館

《東光中学校》

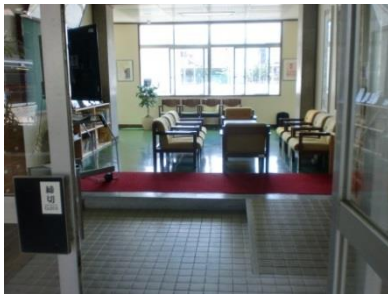


今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

東光中学校は、7学級154名の学校です。玄関に本を展示したりして、学校が読書活動の推進に力を入れていることがだれに対しても一目でわかる、特色あるすばらしい取り組みをしています。

○ 玄関の環境整備

玄関を入ると、すぐ応接セットが設置してあり、そのまわりには本が並べてあります。廊下の椅子のそばには観葉植物を置き、ゆったりした気持ちで本に親しめるようにしています。



(玄関の中央に応接セット、向かって左に書架、奥の廊下に椅子を設置)



(玄関中央の応接セット)



(肘置きがあり、座り心地がよさそうな椅子)

○ 廊下に並べられた椅子

廊下の色に合わせた椅子を置き、落ち着いた雰囲気を持たせています。生徒や職員、PTAが一つになって読書活動の推進に力を入れていることが、来校者にもよく分かります。



(1階の玄関、観葉植物の向こう側に椅子を並べてある)

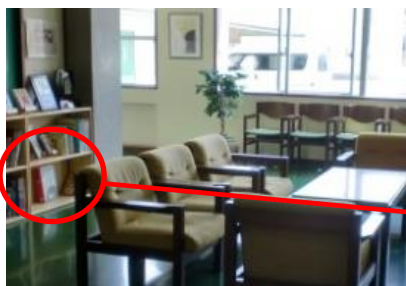


(廊下に並べられ読書がしやすい椅子)



○ 表紙を見せての配架

書架には、生徒が読んでみたくなるような本、読みやすそうな本を配架しています。また、東光中学校が、ドイツのハウプトシューレ・ヘアベツカウル校と姉妹校になっているためドイツに関係する本も配架しています。さらに、掲示板には「おすすめの本の紹介文」を掲示しています。



(応接セットの後ろに掲示板や書架を配置)



(掲示板には「おすすめの本の紹介文」を貼り、本の表紙を見せて配架)



(ドイツの学校と姉妹校締結の様子を掲載した現地の新聞)



(書架の上には「日本の歴史」「椎名林檎の歌姫/素顔」などの表紙を見せて配架)



(ワンピースの「ストロング ワールド」写真と簡潔な文章で書かれた「ドイツ」などの表紙を見せて配架)



(読書の幅を広げるため、生徒が読みやすそうな「なぞのユニコーン号」と一緒に「平家物語」などの本を配架)



(応接セットの横に、新聞を保管しておく場所を設置)



(授業などで活用するため保管されている新聞)



9月生まれの文学者



三浦 しをん (みうら しをん) と「格闘する者に○」

1976年9月23日 東京都生まれ

三浦氏は、物心ついたころから絵本を読むのが好きで、小学生の頃は学校や図書館で気になった本を手当たり次第に読んでいたそうです。

1995年早稲田大学第一文学部に入学し、翌年、文学部文学科演劇専修に進みました。

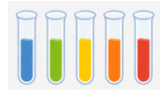
編集者として出版社に就職することを志望し就職活動していた大学4年の時、入社試験で三浦氏の作文を読み、面接した編集者が執筆の才能を見出し、その編集者の勧めで「Boiled Eggs Online」のサイトで、ウィークリー読書エッセイ「しをんのしおり」の連載を始めました。

出版社や編集プロダクションの面接を約20社受けましたが、就職氷河期ですべて落ちたので、卒業後は友人の紹介で外資系出版社の事務のアルバイトを約3か月、その後、大型古書店のアルバイトとして勤務しました。

2000年4月、就職活動の経験をもとに書いた作家デビュー作品「格闘する者に○」は、就職活動で三浦氏を面接した元編集者から小説を書くよう強く叱咤激励され、自分の就職活動なら書けるのではと提案されたため、古書店に勤務しながら3か月かけて書き上げました。

三浦氏は、文章をしっかりと練って執筆することを目標にしているそうです。作品は、「まほろ駅前多田便利軒」(直木賞)「舟を編む」(本屋大賞1位)「きみはポラリス」などがあります。

筒井 康隆 (つつい やすたか) と「時をかける少女」



1934年9月24日 大阪府大阪市生まれ

筒井氏は男ばかりの4人兄弟で、父親が蔵書家だったため読書好きでしたが、中学生の頃は映画や漫画に熱中し、「漫画少年」誌の投稿欄の常連だったそうです。

1948年児童劇団「子熊座」に入団、高校入学後は演劇部の部長を務め、1952年関西芸術アカデミー研究科の研究生になりました。同志社大学文学部文化学科心理学専攻(現在は心理学部)に入学後は同志社小劇場に入り、青年劇団「青猫座」でも演劇活動に力を入れました。

大学卒業後、展示装飾などを手がける乃村工藝社に入社し勤務しながら、サラリーマン劇団「明日」で演劇活動を継続しました。

1960年6月、父と3人の弟とともにSF雑誌「NULL」を創刊し、その中の短編「お助け」が江戸川乱歩氏の目に留まり、「宝石」8月号に転載され実質的な作家デビューとなりました。

代表作の「時をかける少女」は、筒井氏が中学生・高校生向けに、はじめて書いた本格的なSF作品です。相当長い連載になりそうだったため、がっかりした話にしないといけないと思い、朝から新宿御苑に行って、アイデアを考えながらうろうろ歩きまわるなどずいぶん苦しんだそうです。この話は半年ぐらいの連載でしたが、何度もドラマ化や映画化されました。

筒井氏は、小松左京氏、星新一氏と並んで「SF御三家」とも称されます。1980年には日本SF作家クラブの事務局長として日本SF大賞の創設に尽力しました。作品は、「ヨッパ谷への降下」(川端康成文学賞)「朝のガスパール」(日本SF大賞)などがあります。



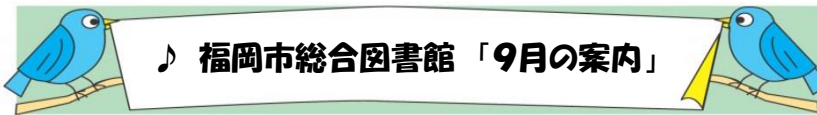
♪ 福岡アジア美術館「9月の案内」



*アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

8日(日), 10日(火), 22日(日), 24日(火)

- ・時 間: 11:30~12:00, 13:00~13:30
- ・場 所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「9月の案内」



*毎月のおはなし会

1日(日), 7日(土), 8日(日), 14日(土), 15日(日)

21日(土), 22日(日), 28日(土), 29日(日)

- ・時 間 土曜日: 7日, 14日, 21日

14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

28日

14:30~15:00 幼児~小学生向けおはなし会

日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会

15:15~15:45 小学生向けおはなし会

- ・場 所 こども図書館 おはなしの家

☆ あとがき

博多工業高校で開催された第3回TRPG交流会には、博多工業高校で図書委員をしていた卒業生も数人来校して、交流会の運営を手伝ったりゲームに参加したりしていました。きっと、在校中の委員会活動が、とても楽しかったのだろうと思いました。「TRPGのサイトを見て楽しそうだったので交流会に参加しました。」と、女子中学生の一人は、参加した理由を言っていました。

TRPG交流会ははじめて会った生徒同士でも、前から友達であったかのように笑ったり冗談を言い合ったりして、とても楽しい時間を過ごしていたようでした。

発 行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第160回

本は、まだ見たこともない場所にも、私たちを連れて行ってくれます。

『秘境国 まだ見たことのない絶景』

パイインターナショナル 2011年 1800円(税抜)

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年—— 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ — 一般☆☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

秘境国とは「名前は聞いたことがあってもどんな国が知らなかったり、そもそも名前すら聞いたことのない未知の国」のこと。この本では、世界中の秘境国が、見開きいっぱいの美しい写真とともに紹介されています。写真に添えられている短い文章には、貧困や環境破壊など、それぞれの国が抱える問題や、映画や日本で有名なキャラクターなどを通して、それらの国が私たちの身近な生活に繋がっていることを紹介してくれます。

<子どもに手渡す時のポイント>

1つ1つの国の情報量は少ないですが、その分、興味の入り口として手渡すことのできる本です。どのページから読んでも楽しめます。長い文章を読むのが苦手な子どもや、物語以外に興味がある子どもにもぜひ紹介してあげてください。

文章は難解ではありませんが、一般向けの書籍ですので、漢字にふりがなはありません。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

